

## 2019年度事業計画

### I. 基本的な考え方

1. 2017年度は自立運営への「基盤づくり最重要年」とし、干し芋事業・有機農産物の拡大、直売所改修・朝市の実施、DVDの作成（広報・学生募集用）、賛助会員の拡大、教育研究会・販路販売拡大研究会の実施など様々な取組みを実施した。
2. また、協会（学園）を取り巻く環境が、学生の減少・収支の悪化など更に厳しさを増しているため、2018年度から2020年度の3か年を「抜本的改革・選択と集中」の改革期間とし、2020年度に「自立運営」（赤字解消）達成を目的に定め「様々な取組」を実践している。
3. 2019年度は、「改革の節目の年」として、「抜本的改革・選択と集中」を具体的に実践する。

### II. 実施具体策

#### 1. 主要行事の実施

第1回理事会	2019年 5月 30日（木）
定期総会	2019年 6月 15日（土）
第2回理事会	2019年 10月
第3回理事会	2020年 3月上旬

#### 2. 重点実施策

##### (1) 「抜本的改革・選択と集中」の実施（部門の再構築）

●収支改善を目的とした「改革」を実践し収支改善に努める。

（主な具体策）

##### ① 2019年1月に部門・体制の変更を実施した。概要(別紙1)

部門別収支と要員数、今後伸長が期待される部門(重点部門)を勘案して再構築した。なお、「部門の大幅削減」は学園の在り方の根幹にかかわるので、1事業(酪農)のみとし継続して検討を進める。

2019年度は部門再構築が早期に成果が出るよう実践する。

##### ② 収支改善を目的に、職員給与の見直し・事業費の見直し、同窓生その他関係者への寄付金（支援金）のお願いを行う。

##### ③ ガバナンスを強化するため、「部門責任者会議」を行い、実績の進捗管理・課題の共有化・対応の迅速化を図る。

## (2) 学園の理念・精神の再整理・発信

●建学時の理念・取組を検証し、農（農場・実践・自立）を核にした人間形成という90年の歴史(加藤完治の精神)を再整理のうえ、実践学園の魅力として内外に発信する。

(主な具体策)

- ①理念・精神の再整理、現状の見直し（教育・農場）・改善、情報発信に取り組む。また、統一教材・広報資材とするため、教本を作成する。(未定稿：別冊)
- ②新しい教育理念・方針は、「別紙2」の内容で整理し、現状の見直し・改善、対外発信の強化（学園案内パンフ・ホームページ）を進める。  
\*2019年度の主な取組：別紙2

## (3) 教育関係

●情報発信機能を更に強化すると共に、「教育研究会」を継続実施し、募集方法の検証・強化、教育内容の見直し（座学・実践）等を行う。

(主な具体策)

- ①あぐりナビなどネット広告への対応、学園案内（1ページの簡易版）の配布拡大、SNSの見直し・強化など情報発信機能の更なる強化を図る。
- ②1日農業体験など多くの人が「農」に触れ合う場を企画・実施する。
- ③上記の理念・精神の見直しと併せて、実践学園の魅力発信を強化する。
- ④職員のスキル向上→個別面談の実施（目標の設定）、計画的な研修会受講促進
- ⑤研修生教育の継続
  - ・全国農業会議所の研修生（3日～3カ月）
  - ・農ある暮らし講座（旧：就農準備校）の実施
  - ・国際農業者交流協会、子供たちの農業体験等
- ⑥寮生活の改善→改善計画策定・予算化→早期着手
- ⑦ニューファーマー・プロジェクト  
→学園卒業後も寮に滞在しながら、周辺自治体（水戸市、茨城町、城里町）への就農準備をする。

## (4) 農場・販売関係

●改革(体制・要員)の定着・効果発揮を早期に実現し、重点部門を中心に農場収益の拡大を更に追及する。

(主な具体策)

- ①品目別（重点部門）の主な取組（収支改善策）一覧：別紙1のとおり
- ②生産力・品質（魅力ある商品づくり）の強化
- ③マーケティング力（販路拡大・販売の強化）  
販売体制を強化し、販売力強化を図る。特に「顧客管理の仕組み」を定着・活用を図る。
- ④学園ブランド（PB）の検討・着手（特にさつまいも商品）

⑤有機農産物のC S A、宅配事業の着手

固定客（学園ファン）とのC S A（提携）に着手し、農・食・学園の魅力発信を図り、有機農産物の販売を拡大する。また、県補助事業の着実な実践を行う。

⑥卒業生ネットワークの活用促進と通信販売・贈答品の強化

⑦直売所運営の強化→倍増運動の継続

○売上増対策（品揃え、広報対策の強化、学園のパン屋さん、季節主力商品・P Bの開発、ジェラードコーナーの活用・各種イベントの強化等）

**（５）施設・機械の維持・改修**

●老朽化の進展、新規事業への投資などが増加しており、限られた資源を計画的・効果的に活用する。

（主な具体策）

①優先順位・予算化を図り、計画的に実施する。

→施設・機械の改修計画：別紙 3のとおり

**（６）情報発信力の強化・ネットワークの構築**

●協会（学園）の魅力を最大限P Rし、販売拡大につなげる。また、直売所情報・C S A等に活用できるネットワークを構築する。

（主な具体策）

①顧客管理・S N S活用等のネットワーク機能の構築・発揮

②近隣住民（消費者）対策の強化

③首都圏消費者（特に生協・農協）へのP R（農業体験・研修への参画）→消費者向け学校案内の作成等

④S N S・ホームページの充実

⑤賛助会員の拡大、同窓会の強化（卒業生への協力よびかけ）

**（７）資金調達の計画的な実施**

●協会所有の資源（土地）へのニーズが近隣の都市化等により高くなっており、教育・農場での必要規模を明確にしながら資産を有効・計画的に活用し、協会運営や将来の基盤づくりに活用する。

（主な具体策）

売却可能な土地の有効利用→資産売却管理の強化

### Ⅲ. 収支予算書（案）：別紙「収支予算書」のとおり

#### 収支計算書（抜粋）

（単位：千円）

科目		31 予算 (A)	30 見通 (B)	29 実績 (C)	(A) / (B)	(A) / (C)
経常収益	教育事業収益	10,357	24,145	23,653	43%	44%
	農場生産収益	120,328	107,634	101,245	112%	119%
	受取補助金等	4,000	6,573	6,601	61%	61%
	受取寄附金	5,000	86	64	5814%	7813%
	計	139,685	138,438	131,563	101%	106%
経常費用	事業費	180,265	192,130	188,314	94%	96%
	（うち給与）	(52,233)	(58,023)	(59,013)	90%	89%
	（うち減価償却）	(20,514)	(22,004)	(21,975)	93%	93%
	管理費	17,416	25,464	17,865	68%	97%
	計	197,681	217,594	206,179	91%	96%
当期経常増減額		-57,996	-79,156	-74,616	73%	78%
（減価償却除く）		-37,482	-57,152	-52,641	66%	71%
経常外収益	土地売却益	0	53,855	124,683	0%	0%
当期一般正味財産増減額		-57,996	-25,301	50,067	229%	-116%

#### ○平成31年度 収支予算書の考え方（ポイント）

##### 収入の部

1. 教育事業収入は、学生数の減少により大幅に低下すると見込んでいる
2. 農場生産収入は、甘藷・ネギの売上増を中心に増加を見込んでいる
3. 寄付金の募集活動により、500万円の寄付金収入見込み。  
（未決定の事業として、エスコとの農薬試験収入、いばらき農業アカデミー受託収入も実施に向け準備中）

##### 支出の部

1. 人件費削減による給与手当支出の減少を予定  
同時に、若手職員の雇用も予定し費用に計上している。
2. 修繕費について、平成29年度は甘藷倉庫や堆肥舎の修繕があった。2019年度は修繕費用は減少すると見込んでいる。
3. 平成30年度に機械類のリースを開始しているため、今後も賃借料の支払いは継続的に発生する予定
4. 租税負担金は、30年度も土地売却益があるため、控除比率に影響が出ると考

えられる。

5. 学生減により炊事費は減少。
6. 乳牛廃止により飼料費は減少。

#### 当期経常増減額

減価償却費を除くと△37,482千円となる。

事業計画の実施により、教育収益の拡大・農場収益の拡大に努力すると共に、大幅な赤字の部門・構造的赤字の部門について、2019年度内に継続検討を行う。

#### 平成31年度 農場（部門別）予算書

単位：円

新部門名	収入	支出	所得
野菜①	46,191,000	20,414,000	25,777,000
野菜②	1,728,000	514,000	1,214,000
水田（果樹）	12,150,000	5,550,000	6,600,000
水耕	10,105,000	4,046,700	6,058,300
有機農業	4,795,000	2,055,000	2,740,000
畜産	17,500,000	11,759,000	5,741,000
農産加工	17,319,000	7,906,084	9,412,916
販売	10,540,000	10,040,000	500,000
農機管理	0	6,407,000	-6,407,000
合計	120,328,000	68,691,784	51,636,216

○「抜本改革・選択と集中」の体制再編成（概要）

別紙1

（考え方）

1. 収益（可能）品目に要員を再編する。
2. 体制再編により、要員・業務の効率化・合理化を図る。

<ポイント>

野菜：①大規模と直売所の分離、両立②大規模生産（契約栽培）の強化による売上・収益拡大。

畜産：牛、豚を一本化し業務の効率化・収支改善を図る。

販売：販売部とし、①生産と販売の連携強化②さらなる販路拡大。

3. 部門の収支管理・労務管理・責任体制を強化する（ガバナンスの強化）

現部門	新部門名	コメント	収益改善策
甘藷	野菜①	*強化 大規模生産	・重点品目への集約（大口・契約栽培） ・甘藷規模拡大（3⇒8ha） ・ハウスの活用強化（小松菜）
露地野菜			
露地野菜	野菜②	直売所・体験	・店舗品揃え強化 ・体験の強化
水田	水田（果樹）		・ブルーベリーの品質歩留り向上
水耕	水耕		
有機農業	有機農業	*強化	・規模・品目拡大 ・CSA着手 ・直売所対応強化
養豚	畜産	・部門統一	・養豚契約見直し
養牛			・乳牛廃止
農産加工	農産加工	*強化	・パン、加工品の拡大
畜産加工			
直売所	販売	*強化 ・販売全般	・拡販対策の強化 （品揃え・イベント・店づくり 広報等）（販路拡大）
教務	教務		・学生募集の強化
総務	総務		・管理、システム機能強化

農場7部門

**本学園の使命（教育理念）**

農場の経営を通じてすべての人に農に関する学びの場を提供し、農業の担い手および地域社会に貢献する人材を育成する。

**基本姿勢 「農の意義」の体得**

農業は植物、動物という命を育てる職業であり、食とはその命を頂くことである。農業と食の意義について理解を深め、私たちの命と健康に直結しているという自覚を促す。

※「生を肯定して始めて農の意義を知る。衣食住の原料生産に従事するは善なり。」

**教育方針**

○開かれた農場教育

体験から就農まで様々な目的をもった全ての人に対して、農場を提供するとともに農に関する基礎的かつ実践的な技術、知識の習得を助ける。

○社会に貢献する人格形成

農場、寮において職員と学生が互いに学びあい、切磋琢磨することにより、自立と共同の精神を体得し、社会人としてのより高い良識を養う。

○経営の実践

農場は経営確立の活きた実例を示す場であり、農業経営の実践を通じて実地に活かすことのできる実力を養成する。

<教育理念・方針と具体的取り組み>

理念・方針	具体的な取り組み
「農の意義」の体得	・ 神社参拝☆                      ・ 理事長講話☆ ・ 農場実習                      ・ 食と農の講座（宮沢理事）☆
開かれた農場教育	・ 専門士科（2年）                      ・ 実践力養成科（1年） ・ 1日体験☆                      ・ 農業体験研修                      ・ 農ある暮らし講座 ・ 子ども芋ほり体験                      ・ パン教室                      ・ エスコ農薬試験 ・ 各種学科、研修                      ・ CSA                      ・ 外国人受入☆ ・ 農福連携（障害者受入・雇用）☆
社会に貢献する人格形成	・ 寮の清掃、会合☆                      ・ 学園行事（富士登山、筑波強歩） ・ 武道☆                      ・ 座禅☆                      ・ マラソン☆
経営の実践	・ 農場の経営改善                      ・ 学科で農場の経営状況を共有☆ ・ かんしょ大規模化                      ・ 近隣農地の耕作☆

☆印は新しい取り組みや強化していくもの

以上

## ○施設・機械の改修計画

別紙3

部門	名称	取得日	取得価額(円)	更新価格	更新時期
水田	ハーベスター	1983/1203	980,000	980,000	2019
	ライムソワー	1983/1203	188,000	188,000	2019
	田植え機	1988/0123	378,000	378,000	2020
	乾燥機	1995/0401	3,527,676	3,527,676	2020
養牛	ホイールローダー	1998/0401	5,460,000	5,460,000	2020
	ホイールローダー	2000/0401	3,087,000	2,295,000	2019
	マニアスプレッダ	2000/0401	1,709,400	857,500	2019
水耕	水耕栽培付帯設備	1990/1024	5,000,000	5,000,000	2019
農産加工	パン用オーブン	—	2,000,000	2,000,000	2022
栄養	回転釜	1986/1210	673,000	673,000	2022
	立体炊飯器	1986/1210	367,000	367,000	2022
	食器洗浄機	1988/1221	900,000	900,000	2020
共用・総務	イズズフラットロ	1997/0401	2,172,425	2,172,425	2022
	イズズダンプ	1997/0401	2,368,525	2,718,558	2019
	ハイエース	2003/0401	1,830,000	1,830,000	2020
	寮個室エアコン	—	6,000,000	6,000,000	2021
	男子浴室	1966/0204	14,099,000	14,099,000	2022

2019年 12,039,058円

2020年 12,095,676円

2021年 6,000,000円

2022年 19,311,425円

計 49,446,159円